

## あいさつ

工藤 雄之(文部科学省研究開発局 地震・防災研究課長)

文部科学省研究開発局 地震・防災研究課長の工藤雄之氏は「地震本部が設置されて以後、非常に高密度の観測網が全国に構築され、長期評価や確率論的地震動予測地図の作成が可能になり、一般の防災に役立てていただけるようになった」と評価しました。

一方で「民間企業、自治体、研究機関の英知を結集することで得られるデータについて、近年の IT の発展の成果を活用することにより、自治体や企業が災害時に日頃の生活や経済活動を中断してよいか否か、どのような規模で継続するのかを考えるとといった実地的な活動につなげることが大事」と述べ、各分科会の取り組みに期待を寄せた他、実際の運用につなげるために共に考えていくことの重要性を強調しました。



あいさつする文部科学省研究開発局の工藤氏